

平成30年度 第1回小山町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成30年 7月31日(火) 午後2時00分開会
午後3時35分閉会
- 2 開催場所 小山町役場 大会議室
- 3 出席委員 込山正秀町長、天野文子教育長、稲恵子教育委員、米山芳子教育委員、
相原正和教育委員、湯山伸彦教育委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席した事務局職員等
湯山博一企画総務部長、長田忠典教育次長、小野一彦住民福祉部長、
野木雄次経済建設部長、遠藤正樹未来創造部長、岩田芳和議会事務局長、
池谷精市オリンピック・パラリンピック推進局長、小野正彦生涯学習課長、
渡邊晃こども育成課専門監、武藤浩こども育成課課長補佐、
後藤喜昭町長戦略課長、藤曲喜久町長戦略課課長補佐
- 6 傍聴人の人数 1人
- 7 報道機関の人数 2人
- 8 会議次第
 - 1 開会
 - 2 町長あいさつ
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 会議事項
 - (1) 児童・生徒、保護者のケアについて
 - (2) その他
 - 5 その他
 - 6 閉会
- 9 会議記録
 - 1 開会

町長戦略課長

定刻となりましたので、ただいまから平成30年度第1回小山町総合教育会議を開会いたします。

私は、本日の会議の進行を務めます、町長戦略課長の後藤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

2 町長あいさつ

町長戦略課長

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、込山町長にごあいさつをお願いします。

町長

こんにちは。本日はお忙しい中、天野教育長さんはじめ、教育委員の方々には総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。このところ暑い日が続いておりまして、また異常気象ということで、西日本ではあのような大きな災害が起き、更にはこの間の台風12号で大きな被害が出ているという中で、小山町におきましては幸いにも、今回、前回共に被害は無かった、ということで、本当に良かったなと感じております。

今日は、会議事項の中に、「児童・生徒、保護者のケアについて」ということで挙げてございます。聞くところによりますと、学校の中は中々大変だなと思えますし、また、教育委員会でも対応をしていただいておりますが、今日はそういった中の事情を色々とお聞きした上で、今後どのような形で対応していくべきか、みなさんのご意見を聞かせていただいて、今後に繋げていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見を戴きたいと思えます。

本日はせっかくの機会ですので、それ以外にも様々な意見を出していただいて、前向きな小山町の教育委員会としていただきたいと思います。

加えて、協議事項の中の『(2) その他』において、私から皆さんに2つほどご相談したいことがございますので、また後程よろしくお願いたします。本日は誠にありがとうございます。

3 教育長あいさつ

町長戦略課長

ありがとうございました。続きまして、天野教育長にごあいさつをお願いします。

教育長

改めまして、こんにちは。本日は総合教育会議に御参加いただきまして、ありがとうございます。今、町長からお話がありましたとおり、地球が異常になっているのではないかと思うほど、色々想定外どころか、経験にない事が起きていまして、台風12号は北上するどころか南下しているといった経験のないことが起きています。

世の中は先行き不透明と言いますか、これからの時代を生きる子供たちは、AI、つまり人工知能の発達により、今ある仕事の半分以上が無いかも知れないと言われております。そういう時代に生きる子供達、そして、そういう未来を創っていく子供達のためにも、彼らがしなやかな心と

頭脳を持ってこれからの時代を生き抜いて欲しいな、と願っているところでございます。それには良い環境を作っていく事が一番ではないかと思えます。学力のみではなく、人としてどう強く生きていくか、どうたくましく生きていくか、どんな知恵を出していくのか、ということが大事なんじゃないかと思えます。

そういう意味では、今年の7月から“ふるさと金太郎博士事業”を始めました。子どもたちが主体的に何事にも取り組み、学校の授業の中でも子どもたちが主体的に深い学びをするという風にして、子供たちが一層思考力を高め、共に考え合うという風にして授業を進めていきたいと考えております。これを実現するためには良い環境作りが大事なので、今日の話し合いの中で、そんなことも話し合えればな、と考えております。よろしく申し上げます。

4 会議事項

町長戦略課長

ありがとうございました。次に、次第の「4 会議事項」に移ります。ここからの議事進行は、座長であります町長にお願いいたします。

町長

それでは、ここからは私が議事を進めますので、皆様よろしくお願いいたします。はじめに、会議事項（1）児童・生徒、保護者のケアについて、を議題といたしたいと思えます。近年、不登校など課題を抱える児童・生徒が急増しているという話を耳にします。個々の理由はあると思えますが、その原因が保護者にあることも少なくないようです。本日は、現状をそれぞれ共有し、課題解決に向けた具体的な方策を探りたいと考えております。

はじめに、現在の状況、更にこれまでの対応策などについて、教育委員会事務局から報告を受けたいと思えます。よろしく申し上げます。

渡邊専門監

教育委員会こども育成課専門監渡邊です。今、町長からご質問のありました“町内の現状”について、ご報告いたします。

まず不登校についてです。平成26年度から昨年度までの推移ですが、30日以上欠席者、26年度は17名、27年度が24名、28年度は29名、29年度は16名ということで、特に顕著な28年度については、全国平均を大幅に上回るパーセンテージとなっています。この内、100日以上欠席者は、26年度は6名、27年度が8名、28年度は12名、29年度は6名ということで、不登校につきましても、小さな町ではありますが、それなりの数があるという現状であります。

対応策といたしまして、28年度が非常に多かったものですから、昨年度は各学校で重点的に取

り組んでいただきました。早期の対応により、新規の不登校児を出さないということで、欠席が2～3日続く様であれば、家庭訪問等を率先して実施していただき、子供が学校に来られるような対策をとってまいりました。その結果、昨年度は16名ということで減少しております。本年度につきましても、今のところ昨年度並みの推移であると確認しております。

それ以外に、“不適応”ということで、登校はするけれど、教室に入れない、授業を受けられないといった子供が増えてきていると感じています。対応については、先ずは担任が対応しているのですが、それでは対応しきれずに、講師・支援員・管理職等も対応にあたり、家庭訪問等も実施して保護者の対応にもあたっているといった状況です。原因といたしましては、特別支援的な意味合いもありますが、家庭的な問題、更には保護者自身も問題を抱えているといった場合も、近年多くなっていると感じています。

学校は本来、子供の学力向上、資質の向上を目指して取り組んで行くべきものでありますが、今、説明いたしましたとおり、不登校・不適応・保護者対応等の業務が非常に多くなっていて、学校（教師）はその対応に時間を割かれ、精神的・肉体的にも非常に負担を強いられている、といった状況にあると認識しております。以上です。

町長

ありがとうございました。ただ今報告がありました、課題を抱えた保護者とその子供の増加やその対応状況につきまして、皆様からご意見をいただきたいと思えます。

米山教育委員

具体的にどのような事があるのか、もし差支えなければお聞かせいただきたいと思えます。

渡邊専門監

個人名等、詳細までは申し上げられませんが、現象としましては、不登校児の対応をした先で、保護者への対応ということで、「子供を学校へ登校させていただきたい」、その上でどんな協力をしていったらいいのかなという話を保護者としている中で、実は保護者自身が精神的に病んでいるといった場合が多くありまして、その対応を学校内で行っているところで、正直、警察が介入しなければならないというような事態も起きております。

不登校の関係で言いますと、保護者等への働きかけもするのですが、中々打開できず、その子の場合半年近く親以外の人と話をしていない、学校が家に行っても会えない、教育委員会でも対応をしているが、それでも会えない。保護者と子供が外食する時しか外出もしない、そういったケースもあります。中には不登校を改善しようとして病院にかかっていたが、保護者との関係性が1つの原因だろうということで、病院に緊急で措置入院したというケースもあります。話せる内容としてはこの程度です。

稲教育委員

どこの学校にもあるのでしょうか。

渡邊専門監

今申し上げたような事象は、いくつかの限定的な小中学校であります。ただし、不適応といった特別支援的な生徒については、正直どこの学校にも起こりうることだと認識しております。よって、そこについては先手を打っていく必要があるのかなと考えております。

相原教育委員

そのような子供や保護者への対応は、日々いろいろあると思いますけれども、具体的にどのような対応をしているのかお聞かせ願いたいです。

渡邊専門監

第1の窓口は担任。まずは担任が保護者と連絡を取り合ったり、他の関係機関に相談したりして対応しております。ただし、非常に重い事象が多くなっているものですから、担任だけでは事が足りずに、保護者の対応に至っては管理職（校長・教頭）が対応をしている状況であります。保護者によっては、「管理職が相手では話せない」という人もいて、養護教諭や事務員の方でなければ電話に対応しないとといったことまで起きています。そういった意味では、全校体制で対応しているという状況であります。電話の対応は、非常に時間がかかるといった報告も受けております。

湯山教育委員

“現場”にいた者として、自分の体験を含めてお話しさせていただきます。退職する前、それまで起きた事の無い様な事例が、いくつか発生したと記憶しております。例えば、統合失調症といえば、これまでは成人の病であると言われてきましたが、私がいた中学校で、中学生が若年性統合失調症という病にかかりまして、医師に言わせても「中学生の統合失調症というのは、あまり例がない」ということで、どういう風に対応したらよいのだろうということを、非常に苦慮した記憶がございます。

また、ある保護者が「私の娘は性同一性障害です。この子は女の子ですが、心は男の子なので、学校でも男として扱ってもらいたい。」と言ってきた例がありました。男として扱う為の様々な要望がありましたが、学校としては、「お母さんがそのように思い込んで、そのように対応しろと言われても、学校では対応はできません。学校としては、医師の診断書等による専門家の考えがあって、その対応を迫られれば対応をいたしますが、ただお母さんの考えだけでは無理です。」と話したところ、しばらくしたら本当に診断書を持ってきました。それは千葉県の名前も聞いた事の無いような、あるクリニックの診断書でありました。推測ですが、近隣では診断書を出してくれ

るところが無かったのでは、と考えられます。いずれにしても、その診断書を持って来て「こういうことですので、学校でも対応してください。」と言ってきました。これには本当に困りました。県教委等にも相談した結果、「セカンドオピニオンをやろう」ということになり、県教委から静岡済生会病院を紹介してもらい、それで、私も子供と保護者と一緒に行って診断を受けたのですが、既に1回診断が出ているものについては、その病院では全て保護者寄りの意見しか言ってくれなくて、更に困ってしまいました。

私はできるだけこの母親と正面から衝突しないように心がけて対応にあたり、とにかく「この子をどうしようか」という、生徒を一番に考える方針で対応をしていました。その結果、その母親は私とはぶつからなかったのですが、担任に対してはガンガンやっけていまして、担任としてはぶつからざるを得ない状況で、その結果、担任の対応が少しでも悪いと、この母親は何処へでも（何処までも）行ってしまふ。町の教育委員会、そこでダメなら県教委、そこでもダメなら文科省といった具合。加えて、様々な事を非常に良く勉強していて、専門的な言葉で学校に要求を繰り返してきた結果、担任はとても対応できなくて、消耗しきってしまいました。

こんな時、専門的な立場から、母親にも納得できるし、学校の実情も理解しながら対応してくれるような、そういう立場の方がいてくれると本当に助かるのではないかと強く感じた事例でした。子どもたちの病理・病状というものも、過去に無かったような事が多々起こっているため、現場は本当に苦慮していると思います。

米山教育委員

そのような方は、私も地域におりまして、自分の弱さを人によって助けてもらいたいとしたときに、学校をターゲットにしてガンガン文句を言っていくことで、自分の優位を保とうとしているのではないかと思います。

稲教育委員

足柄でも、色々な保護者の方が増えていると思いますけれども、私が見る限り学校の先生方はすごく頑張っていると思います。非常に感謝しています。今後とも宜しくお願いします。

相原教育委員

私も町子連の会長やPTA会長などいろいろやってきたのですが、前までは「PTAとか町子連の役員をやりたくない」という親御さんは多々いましたが、今は「それに関わりたくない」「子ども会にも入りたくない」といった意見を持った保護者が大分増えてきたのかな、と感じています。

地域の事などは、子供会の中でベテランのお父さん・お母さんたちからいろいろ聞いて、例えば新しく入った人は、学校に対する不満とか、子供に対する不安とかがあった場合に、そこでそ

ういうベテランの人からいろいろ意見を聞いて解決できたり、学校の事などは保護者が学校に直接行かずに、そういう親同士の関わり合いの中で解決出来てきたと思うのですが、今はそういう関わり合いを持たずに、何か不満があれば直接学校に行ってしまう人が増えていると感じます。

「こういう不満があったから学校に直接言ってきた」という話を私にする人もいます。やはり、地域の関わり合いが薄れてしまった事により、学校や町に直接文句を言いに行ってしまう人が増えてしまっているのではないかと感じています。

湯山教育委員

親同士の関わり合いという点では、孤立してしまっている親が増えてきているのかな、ということと、昔の3世代の家庭で、お年寄りから繋いできた“価値観”みたいなものが途切れてしまっているように感じます。私が北郷中学校に勤務していた時、北郷中の保護者の方々は本当に色々やって下さるので、ある時、「どうしてこんなに頑張ってくれるのか？」と聞いたことがありました。すると「年寄りがよお、“学校の事は最優先でやれ！”っていうんだよ。」と教えてくれました。それって、すごい事だな、と感じたことを良く覚えています。そういう価値観のようなものが上手く引き継がれていない、孤立している、さらに不安か何かがあって自分を守ろうとする、その反動で学校に対して攻撃的になってしまう。そんな面があるのかな、と感じています。

そんな中、昨年度、町で“きんたろうひろば”を作っていただき、私の孫も年中利用させていただいておるわけですが、そこに行く仲間もいるし、指導員さんもいて、色々なお話を聞かせていただいたり、教えてくれたりする。そういうものが凄く安心感になり、悩みが解消されたりすることに繋がると聞いております。こういったものを組織的に、例えば親学講座とかを開くことで、保護者の不安を解消し、子供にとっても良い人間関係を作っていく、そういうことが大切なのではと感じております。

稲教育委員

若いお母さんたちも頑張っていると思いますが、子育てには周りの手助けが非常に必要だと思います。特に幼児期には「イヤイヤ期」、小学校に上がると「学校に行くのをグズる」「親にわがママを言う」等、成長と共に親との良い関係が築きにくくなっている場合もあると思うので、そんな家庭には、やはり専門の方が対応して下さるとお互いに助かるのではないのでしょうか。

米山教育委員

先日、地区内のある方に質問されました。「須走中学校は、かつて県内で1番の学校だった。それが今では学力がすごく低下しているようだけれども、それはなぜだ？」と。やはり学校は、本来であれば学力向上に力を入れるべきだと思いますし、先生たちだってそこに一番力を入れていきたいと考えているはずですが、しかし、問題を抱えた保護者の方や児童・生徒たちが、先生に頼ら

なければならぬ事情の中で、これらを専門の方にカウンセリングしていただいたら、先生方もとても助かるのではないかと思います。

町長

皆様、他にご意見はございませんか。

それでは今、いくつかお話がありました。湯山先生から出た“親学”についてですが、色々話を聞きますと、やはり親の教育が必要かなと感じます。これは私の独断と偏見ですが、やはり子供が小さい時期から親御さんに対して、色々な形で学校やこども園などが親御さんたちときちんと接して、それで親を教育して行けば、ある程度子供さんが大きくなっても今のような問題が起きずに済むのかなと思います。

つまり、親学もそうですけど『“親に対して”どのように取り組んで行くのか?』、これは今後の教育委員会の大きな課題なのかな…と感じています。

もう一つは、お二方からお話が出ました“カウンセリング”についてです。この対象を子どもたちばかりではなく、親御さんに対しても広げていくと。また、やはり一番重い荷を背負っているのは先生方なので、この先生方に対しても専門的な立場で相談に乗ってアドバイスをさせていただき、それが先生方の仕事の励みになるような、そんなことも必要なのかなと感じております。

皆様のお話を聞いていて、こういった2つのことを強く思ったところでございます。その辺りの事も含めて、教育長からお話をいただきたいと思います。

教育長

教育長です。委員さん達のお話にありましたように、現在、学校は色々な事をやっているおかげで、非常に“複雑化”しているといえます。全ての子供達が皆「学校頑張るぞ!」「勉強頑張るぞ!」といった気持ちで登校していれば、本当に活気のある学校をやっていく事が出来るのですが、今いろいろとお話があったように、色々な問題を抱えた子供が一人や二人であったとしても、それにかかる時間はかなり多くなります。先生方の話を聞くと、「親御さんから一つでもクレームが入ると非常にモチベーションが下がる。」「本当にかっかりしてしまう。」といった話を良くします。そういう意味では、この手の話が先生たちのところに行かない前に、つまりこういったケースがあった時、専門のカウンセリングのできる『臨床心理士』のような方がいてくださると、先生たちも非常に助かりますし、保護者の中には「校長や教頭とはお話ししたくない」「第三者の方にお話を聞いていただきたい」といった意見を持った人もいますので、専門的な方が“カウンセリング”という形で対応していただくということは、親にとっても先生にとってもどちらにとっても非常にありがたい事であると考えます。

次に親学についてですけれども、まず始めに言えることは、「今の世の中は情報過多である」と

ということです。先ほど湯山委員がお話ししたように、昔はそれぞれの家の中に『子育ての一本の線（方針）』があったように思うのですが、今はいろんな情報が簡単に入ってくるし、「昔の子育てのやり方は間違っている！」「“三つ子の魂百まで”なんて神話に惑わされるな！」といった話が堂々と本になったりしています。しかし、私は今でもこうしたことはとても大事だと思っています。子どもが3つになるまでは、愛着心というものをしっかりと持つべきだと考えます。

世間では「間違った情報」が多々あるし、親同士がLine（ライン）で繋がり、何でもかんでも「いいんだよ」「いいんだよ」みたいな・・・、とにかくお互いに楽をするといった傾向がある中で、「お母さん、あなたの今の子育ては大丈夫だよ」「間違っていないよ」と応援をしてあげられるような“親学”とか、親を支援するような講座と言いますか、そういう子育てサポート制度が出来ていくと良いなあと思っています。

町長

ただいま教育長からお話のありました“臨床心理士”について、これは予算等も伴いますので、教育長とお話をして、出来ればなるべく早くこれは対応しなければならないのかなと、一時も置けないのかなと、こんな思いをしておりますので、早急に対応するよう教育長と話を進めていきたいと思えます。

また、“親学”につきましては、ただいま教育長からお話がございましたように、これは教育委員会の方でしっかりと考えていかなければならない事だと思いますので、何か良い名案でもございましたら、ここで御披露いただいて、皆さんで御議論いただきたいと思えます。それではよろしく願いいたします。

長田教育次長

はじめに現状の説明をさせていただきます。

現在は、就園前及び小中学校への入学前に、年1回となりますが、一日入学の日を捉えて、新入生の保護者に向けて親学の講座を実施しているところでございます。親学ばかりではなく、子育て講座という面では、各保育園や北郷こども園のペンギンランドの中で、毎月1回ですけれど行っておりますし、総合文化会館の児童遊戯室においても、年6回の子育て講座を実施しております。加えて、先ほど湯山委員からお話のありました「きんたろうひろば」は、今年3月8日から開館していますが、ここでも子育て講座を毎月1回程度開催しております。教育長からお話がありましたとおり、乳幼児期からの親学というのは非常に大切であると考えております。

教育委員会としての名案という訳ではないんですけど、この親学を更に推進していきたいと考えています。先ほど説明いたしました、年1回しか行っていない親学講座ですが、これについては、特に就園前の保護者を中心に、年間を通じて様々なメニューを含めまして、数回の講座を

持ちたいと考えております。就園前の児童の保護者が対象でありますので、お子さん連れでの参加が想定されますから、親御さんが講座を受けている間は、保育ボランティアなどに子どもを預け、親御さんが安心して講座を受けられるような状態にしていきたいと考えています。お母さんたちはずっと子どもと一緒にいるわけですから、時にはイライラする事もあるでしょうから、そういう講座の時には、子供を預けて、いつもと違うスッキリした気持ちで講座を受けていただきたいと思います。

こういった講座も勿論ですが、更に小山町バージョンの色々な子育て教室なんかも開けていけたらいいなと考えております。こちらについても教育長と詰めていって、今後教育委員会で進めていきたいと考えています。

相原教育委員

先ほどから親学の話題がたくさん出ていますが、私もおじいちゃんおばあちゃんから様々な家庭でのルールや、外に出てからのルールなどを学び、また父母からもそういった事を教わって来ました。今、核家族が増えているという現状で、また、小山町も定住者を多く受け入れるように頑張っている中で、そうなるより更に核家族が多くなっていくと思うのです。新しく来た若い家族は、学びの場が何処にあるか判らない、地域とのコミュニケーションの取り方も判らない、そういう若いお父さんお母さんがいるかも知れません。そういう方たちのためにも、講座の回数を増やすなり、周知して広めていく活動等もしていけば、お父さんお母さんたちが集まって色々な話も出来ると思いますし、そういうことを子どもが小さい時からやって行けば、小学校・中学校と進学したとき、色々な問題の解消に繋がると思いますし、子供のことを親同士が話し合える機会の増加にも繋がると思いますので、是非、親学講座のような取組を、今後も進めていって欲しいなと思います。

湯山教育委員

小さい時の教育というのは非常に重要で、文科省もドンドンそっちの方にシフトしています。相原委員の発表にもありましたとおり、機会（きっかけ）を作るというのはとても大事だと考えております。“人と人”とのきっかけというのもあるでしょうし、先ほどのきんたろうひろばや図書館で行っていること、ああいう“場所”に一度足を踏み入れてみると、「あ、こんなところでこんなことをやっているんだ」ということを知ることにより、自ら学ぶきっかけにもなります。

よって、こういう“場所”を利用した形で、親学講座等が開かれていけばいいんじゃないかなと感じております。

稲教育委員

子どもを預かってくださる環境があって、お母さんが自由に学べるということは、前向きなお

母さんをたくさん育てるという事にもなると思います。子育て中は自分の時間が全然取れないと思いますが、ちょっとホッとする時間を作り、そこで親同士の交流でお互いに学ぶことが出来れば、こういう取組は非常に良いと思います。

米山教育委員

親子の関係がちゃんといってれば、学校とのギクシャクした関係や不登校等の問題も軽減されるのではないかと思います。親が学ぶことによって、共に社会性を身に付け合うことが出来るのではないかと思います。

教育長

先ほどの説明にもありましたが、親学につきましては、入園前、入学前に親御さん全員に対してやっているのですが、非常にあわただしい時間の中で、しかも1回で終わってしまうものから、これがもう少し回数を重ね、継続してやっていく事によって、親御さんは様々な情報がある中で、「あ、自分がやっている事は間違いじゃない!」「自分はこれで良いんだ!」と、自分を肯定できるような親学が何回か受けられれば、安心して自信を持って自分の子育てをしていけるようになるのではないかと思います。

先ほどもお話をしましたが、情報過多のこの時代で、保護者同士でも色々な話をしてしまう。また、Line（ライン）を通じて、先生方や学校での出来事や噂など、様々な情報が飛び交ってしまう。例えば、学校で怒られた子供やその親御さん自身は何とも思っていないのに、他の親たちが大げさにLine（ライン）で流したりしてしまう。そういう色々な情報が飛び交うことで、親たちを余計不安にさせてしまう。これにより、子どもに対しても「アレはダメ」「コレはダメ」と親が言うようになり、そうすると子供が伸び伸び行動できなくなる。そうではなくて「あなたのやっていることは大丈夫だよ」と正しい事を正しいと伝えられる、そういった“今の時代に合わせた親学”を実施できれば、親御さんも安心して子どもたちを学校へ通わせられるのではないかと思います。今の時代は、メディア等を通じて「いじめ」の問題などが直ぐに情報として入ってきます。そうすると余計に親たちの不安を煽る訳です。ある意味、簡単に手に入る情報がありすぎて、余計に親御さんの不安が増しているのかなあと感じます。親の育児を後押しする意味でも、こういった親学は必要なのではないかなあと感じます。

町長

私も振り返ってみますと、平成の初め頃、PTAの役員をやらせていただいたのですが、昔は全くこんな問題は無かったですね。PTA同士が非常に仲良く、一緒に色々な行事をやっていたので、何か問題があれば、この仲間の中で巧い解決方法を導いたりしていました。だから、今のようないくつかの現象を全く理解できません。とは言っても、これが現状なのですから、起きてい

ることに対しては、しっかりと対応をしなければならないと思います。

その意味では、やはり先程から話の出ている座学（親学）は、親たちに対して子供が小さい時にしっかりやる方が、効き目があると思います。とは言え、親子を引き離しておいて「座学に出てください」と言ったって、中々出てくれない。その辺もしっかり考えて、子供が幼稚園・保育園の時にしっかりやって行けば、その子供たちがだんだん大きくなっていくわけですから、色々な問題のブレーキにもなるのかな、と思います。

そこで教育長にお伺いします。この座学を、今後どんな形で進めていくのか、このあたりをお聞きしたいと思います。

教育長

親学については、特にお母さんたちを対象に「親学講座」みたいなものを作りまして、入園前の子ども達、俗にいう「イヤイヤ期」の子どもたちのお母さんたちを対象に、「お子さん連れで大丈夫です」という内容で募集をかけて、年間何回かやって行きたいと考えています。それで、お母さんたちが講座を受けている最中は、保育ボランティアの人たちにお子さんを看てもらおう。お母さんたちは子どもと一緒にじゃないところで、様々な事を学ぶ、専門家の方々から話を聞く、そして時には子どもと一緒に何かを行うとか。そんな風にして、「子どもとはとても愛おしいものだ」という感情をしっかり持ってもらえたらいいなあと思いますし、そんな講座が年間で何回か出来れば、と考えています。そうすれば、先ほど米山委員さんからお話がありましたとおり、母子がしっかりと繋がっていけば、「人を信頼する」「人を好きになる」といった子どもになっていくんじゃないかなあと思います。そんな風にして、乳幼児期のお母さん方を対象に講座をやって行きたいと考えています。

町長

皆様、ありがとうございました。今、色々な意見が出ましたが、予算や時期に関する事については、また教育長と相談させていただいて、それらの取組については、事務方の方でしっかりやって欲しいと思います。また、今出た色々な意見を最終的に教育長がまとめてくれましたが、やっぱりこういうことは早めに手を打つことが大事だと思いますので、早いうちに取り組めるように事務方の方でやって欲しいと思います。

ということで、この件はこれで終わりにしたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

全員

異議なし。

町長

次に、(2) その他についてであります。先ほど申し上げましたとおり、私の方から2点ほど

皆様にお話しさせていただきたいと思えます。「資料を配って下さい」

【町長秘書が、参加者全員（報道含む）に資料を配布。これ以降は資料に沿って説明。】

町長

これは、あくまでも私からの提言でございまして、特に今日の議題には入ってございませんで、ご説明申し上げて、ご意見を聞いた中で、これらの方向性を考えていきたいと、こんな風に考えています。

一つは「中高一貫校制度」について、もう一つは「公設民営塾」についてです。

始めに、中高一貫校制度についてご説明いたします。平成 10 年 6 月の、学校教育法等の一部を改正する法律により導入された制度です。文科省も積極的に全国に導入を推奨しています。静岡県でも、文科省からの推奨に対し、県でも進めているところです。

制度導入の趣旨ですが、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、中央教育審議会第二次答申の提言を受けて、先ほど申し上げました一部改正の法律を作って、今、施行していると、こういうこととございます。

次に、中高一貫校制度の仕組みですが、これには 3 つのパターンがございます。一つ目は、中等教育学校。これは、中学・高校という分け方をしないで、一つの 6 年制の学校として設置するものです。県内でこれを実施している例はございません。

二つ目は、「併設型」中高一貫校です。これは、高校に中学を附属校として併設するイメージです。県内では 3 つの事例があります。

三つ目は、「連携型」中高一貫校です。今回は、これを主に説明したいと思います。これは、高校・中学校のそれぞれが独立しながら連携する形です。設置者はそれぞれ別。つまり、今、想定しているのは、小山高校は“県”、町内 3 つの中学校は“町”ということです。また、この「連携型」中高一貫校には、連携外の中学からこの高校に入学も出来る。つまり、御殿場などの中学生も入学できるということです。さらに、連携する中学から他の高校への受験もできます。つまり、連携した町内中学校の生徒は、沼津東とか、そういう連携高校以外の高校へも行けるということです。全国での導入状況ですが、平成 15 年度の 118 校から、平成 28 年度には 595 校に増えていきます。

県内の取組状況でございますが、3 つございまして、県立川根高校が中川根中学・本川根中学・川根中学と連携、県立松崎高校が賀茂中学・西伊豆中学・松崎中学と連携、県立浜松湖北高校が佐久間中学・水窪中学と連携、こういう形になっております。

川根本町の事例ですが、導入のきっかけといたしまして、県立川根高校の入学者が年々減少し、1 学年 1 クラス化され統廃合の可能性が高まってことをきっかけに、旧 3 町が主体的に川根高校

の存続のために、3つの町立中学校との「連携型中高一貫校制度」を導入しようと取り組んだものです。これについては、これまで町が高校に対して全面的に協力してきた経緯と関係があったということです。

次に小山町での導入イメージですが、お配りした資料の『県立小山高校+小山町立3中学校の「連携型」中高一貫校のイメージ図』のとおりです。連携の取組ですが、教員の相互乗り入れ授業、つなぎ教材を使つての授業、中高合同ボランティア活動、生徒会活動・学校行事・部活動の交流、その他です。ちなみに、先ほど説明いたしました、この連携型中高一貫校とした場合でも、他の高校を受験する事が出来ますし、また、町外の他の中学から小山高校に入学する事も出来ます。

次に、小山町で「連携型中高一貫校制度」を導入する目的とメリットですが、まずは小山町内の中学生の小山高校への入学者数を増やすということです。これについては、A3縦長の別資料で、「小山高校における町内中学校出身者の割合」という表がございまして、開校時(昭和60年)から本年までの町内出身者の割合が出ています。当初、昭和60年には27.8%でありましたが、これがだんだんおかしくなっていって、特に平成23年度くらいからどんどん減ってしまって、昨年度、その割合は16.3%にまで減少し、更に今年は14.7%にまで減少しています。

私の経験でございますが、過去に長泉高校という高校がございましたが、今は三島長陵高校という高校に再編されて、三島の方に行ってしまいました。この長泉高校は、小山高校と同時に昭和60年に開校いたしました。私も県会議員をやっていたから、この三島長陵高校の再編には関わらせていただき、県教委とも色々なやりとりをさせていただいた訳ですが、この時、平成20年に長泉高校は閉校します。この頃、長泉高校への長泉町出身者の入学割合が15%を切っていました。県教委とも闘いましたが、最終的に県教委の意見としては「長泉町出身中学の生徒さんが通っていない！」というのが閉校(再編)の決め手となってしまいました。つまり、現在の小山高校の状況は、この水準に達していないということで、私は強い危機感を感じ、この提言をさせていただいているわけでございます。

また元の資料に戻ります。小山町で「連携型中高一貫校制度」を導入する目的とメリットの二つ目以降ですが、中高6年間の体系的な教育による豊かな人間性の育成。6年間を見通したキャリアデザイン教育。(小山町の小山高校卒業生の積極的採用に繋がる。)教員の相互乗り入れ授業が出来る。中学校の時の先生が高校に来てフォローしてくれるので、生徒も安心。生徒会活動や部活、学校行事などを中高合同で開催することにより、豊かな人間性を育成できる。小山高校の魅力化に繋がる。こういった事が目的・メリットかなと考えております。

次に導入への手続きということで、これはちょっと先走ったお話ですが、もしやるということ

になれば、こんな流れで進んでいくのかなあ、というフローを載せてございます。まずは小山町と教育委員会が協力・連携して、このことにどのようにして取り組むかしっかり決めていって、設置者である県に対して、連携型の実施に関する協議をしていくと。県教委に対しては、小山高校での連携型の教育課程の編成手続きの協議、及び入学者選抜方法の決定に関する協議をしていくと。同時に、教育委員会と町内3中学は連絡・調整を行っていくと。更に、町内3中学と小山高校とでは、教育課程の編成に基づく協議を行っていくと。こんな流れを想定しています。

次に、「ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画」という資料を御覧下さい。これは、平成30年3月に県教委によって策定された第三次の長期計画（向こう10年間）でございますが、この中で「県立の中高一貫教育校の基本方向」といたしまして、“連携型中高一貫教育については、関係地域の意向等を十分踏まえ、引き続き推進する”と、県教委の考えが示されています。また、県立高等学校の全日制課程の配置等の基本方向のうち適正規模の基本方向として、“おおむね1学年6～8学級が適正であると考え”と示されています。県は、1学年は6～8クラスが適当であると考えているんですね。また、適正配置の基本方向として、県立高等学校の全日制課程の配置については、“1学年4学級以下になるような生徒数の少なくなる学校を対象に、発展的に将来を見据えた新構想高等学校への改編（再編整備）を検討する”とされており、既に何校かの再編整備は済んでおります。

次のページの表は、県下の高校の学級数一覧表です。小山高校は、4学級のグループのところに入っています。ただし、今の1年生は3学級なので、4学級である2年生と3年生が抜けてしまえば、小山校は3学級のグループに入ってしまうということです。

次のページの「魅力ある学校づくりに向けた新構想高等学校計画」についてですが、これまでの実績として、賀茂地区においては下田南と下田北が新構想高等学校として改編され、下田高等学校になっています。大仁と修善寺工業が伊豆総合高等学校に改編、庵原と市立清水商業が静岡市立清水桜が丘高等学校に改編、静岡南と市立商業が駿河総合高等学校に改編、清水工業と静岡工業が科学技術高等学校に改編、大井川と吉田が清流館高等学校に改編、森と周智が遠江総合高等学校に改編、農業経営と浜松城南が浜松大平台高等学校に改編、二俣と天竜林業と春野が天竜高等学校に改編、引佐と気賀と三ヶ日が浜松湖北高等学校に改編と、こういったように、既に新構想高等学校として改編が終わっているといった状況であります。

次に「今後の魅力ある学校づくりに向けた新構想高等学校計画」についてですが、平成40年度を目途とした具体的な新構想高等学校計画の基本方針は、概ね以下のとおりとなっています。

田方地区では、伊東高等学校と同校城ヶ崎分校と伊藤商業高等学校が、平成35年度を目途に新構想高等学校に改編、沼津地区では、沼津西高等学校と沼津城北高等学校が平成39年度を目途に

新構想高等学校に改編、志榛地区の金谷高等学校については、周辺地区のニーズを踏まえ、平成36年度を目途に、多部制の定時制課程（単位制）を有する高等学校に改編、これにより藤枝東と島田商業の定時制課程については平成36年度を目途に廃止、小笠地区では、横須賀高等学校と池新田高等学校が、平成38年度を目途に新構想高等学校に改編されます。この池新田については、テレビ等で見た方もおられるかも知れませんが、今、反対運動が起こっていますね。中々これは難しいのかな、と思っております。

それで、『この説明の中に小山高校が入っていない！』ということで、みなさん安心をされるかと思えます。しかし、ここからはあくまでも私の推測ですが、この近隣には県立高校が3つございまして、裾野高校まで入れると4つありますが、御殿場地区においては御殿場南高校が5学級、御殿場高校が5学級、小山高校が今年は減らして3学級ということで、御殿場南高校と小山高校を足すと、ちょうど8学級になるんですね。新構想高等学校というのは、従来の校舎を壊して、新しく新しい場所に建てるんです。しかし、南校と小山高校をくっつける場合は、私も南高校の1期生で当時8クラスございましたんで、教室も8クラス分あって、その後も全部8クラスでしたから、学校は8クラスに対応できるんですね。そう考えると、別にこの新構想高等学校を作らなくても、合併という形を取ればできるのかなと、そんな疑問も持っているところでございます。

ここまで色々説明をしてきましたが、私としては、この事はかなり『危機的な状況』になっているのではないかと思います。ということで、皆様方のご意見を聞いて、また教育委員さんも一緒になって、当初教育長と一緒に県教委の教育長にもお会いして、3つを4つにしるようお願いした経緯もございまして、ちょっとそれだけじゃ生ぬるいのかなと。こんなところに私の思いが行っておりますので、今日は皆様方のご意見を聞いて、これからの事については今後教育長とお話しさせていただいて進めていきたいと思いますが、ちょっと急な話で大変恐縮なのですが、皆様のご意見を伺いたいと思います。

稲教育委員

突然のお話でちょっと難しいですけど、進学したいという全ての生徒が入学というか、進学できるんでしょうか？

町長

なかなか小山高校も入学希望者が多くて、今まで一度たりとも欠員が出たことは無いと聞いています。人気はあるということですが、県の政策でこのように進めていくのかなと、これは私の私見というか想いですので、その辺りは全くわかりませんが、希望者はこれからもあると思います。

米山教育委員

学校の中に、ある程度特色が無いと、全く行く意味が無いような気がします。なので、ある程度特色を持った形で合併をするのであれば、それは良い事なのかな、と思います。

町長

そうですね。ありがとうございます。

相原教育委員

私も受験生の娘が居るんですけど、昨年度、小山校が1クラス減ったことで、やっぱり子供たちが不安になってたのもそうなんですけど、保護者の方々も不安になっていました。また、本当は南高校を受けたいんだけど、小山高校の上の方に居た方が進学に有利なのかなあという意見もあったりして、それで南高校を受けようとしていた子たちが小山高校を受ける、そうすると小山高校を受けようとしていた子たちが、自分たちが入れるかどうか判らない、そうするとその下の普通科が無い、ということで御殿場高校を受けた子達も居ました。

そんな風にクラスが一つ減って定員が30人減ったことで、本当は小山高校に行きたいという子も、他の学校を受けるということになってしまっていたので、小山町の子どもたちが優先的に試験を受けられて、優先的に入れるという形になってくれると、まだまだ小山高校に行きたいという町内の子どもは増えると思います。

加えて、やっぱり“部活”ですよ。高校を選ぶのに、部活で選んでいる子もかなり多いです。例えば小山には無い部活をやりたいから沼津の方に出ていく子も居ますし、そもそも人数が少ないと満足に部活動ができない、試合もできないという状況になっていきます。例えば、柔道とか水泳とか陸上とか…。やっぱり部活動の充実とか、指導者の充実というのは、先ほどの米山委員さんのご意見意にもあったとおり、“魅力”とか“他校と違う特色”を持つことで、希望者が増えていくのかな、と思います。

小山町の子が小山町の高校に行くというのは凄く良いことだと思います。やっぱり地元の子が地元の高校を卒業できるというのは大変意味のあることだと思いますので、徐々に保護者等の意見もしっかり聞いて、色々な意見を参考に進めていけばいいのかな、と思います。

湯山教育委員

小山高校の3代前の校長の時に、私は未だ現職だったのですが、その時何度かお話しさせていただきました。その時校長は、「何としても4クラスは死守しなければならない」「4クラスを死守できなければ小山高校は無くなってしまおうよ」という、危機感のあるお話を何度かされていました。そして今年「遂に3か…」と、今後については非常に心配に思っていましたところ、町長さんからこういうお話があってドキっとしたんですけど、さすがずっと先まで考えていらっしゃるなあと感服いたしました。創立当時のことを考えますと、昭和60年当時、ここに建てる時の

合言葉っていうか、「小山高校を小山で育てよう！」っていう意識が非常に強くて、あまり具体的に言っているのか判らないですけど、南校に匹敵するような子どもたちがたくさん小山校に行っていたわけです。それで、それが数年か続いたんですけど、そのうちだんだん行かなくなってしまった。というのは、やはり申し訳ないんですけど、小山高校がその実績面で十分応えていなかった、そういう面があったのではないかなあとと思います。

この構想を見まして、連携の一貫校ということで、取組内容については可能なものがたくさんあるんじゃないかな、と感じております。ただ、今は子どもたちの進路につきましては、中学校とか教師が、執拗に強く誘導していくような指導ができませんので、子供たちの方から「行ってみたい！」と思える学校になれるかどうか、これが大きいんじゃないかな、と思います。

高校が幅広く進学・就職・専門学校等、更には相原委員が言ったように部活動なんかも含めて、そういう魅力ある高校づくりをどのくらいやっていただけるかな、という部分がその後に繋がっていくんじゃないのかな、と思います。ただ考え方としては、今、何とか手を打たないと、町長さんが心配されるような方向に進んでしまうのかな、と私も衝撃を受けたところであります。

町長

皆様、ありがとうございました。これは大きな問題でございますので、この場でどうこう出来ることではございませんから、今日は皆さんに御提言申し上げて、ご承知おき戴きたいと思えます。また教育長とも相談させていただいて、今後、皆様にご相談できることが出来ましたら、このような機会に、これをテーマに色々御議論いただいたりすることも必要かなと、このように考えておりますので、その時は宜しく願いいたします。

町長

もう一つの御提言ですが、『公設民営塾について』でございます。

【この案件も、町長が配布した資料に沿って説明。】

公設民営塾とは、場所・施設を自治体が提供し、講師・教材を民間事業者に委託するものです。初期投資が抑えられ、塾を誘致する必要が無い、といったものです。公設民営塾の狙いですが、学校の授業の補助、受験対策、交流の場、見守り等、その狙いは自治体によって様々ですが、小山町の公設民営塾の狙いとしては、「須走地区の人口流出の抑制」を、狙いとして考えています。須走地区の小学生については、高学年から段階的に児童数の減少傾向が目立ちます。これは、「学校の生徒数が多い（競争意識が芽生えやすい、部活が多い等）」「受験を見越した学習環境が充実している（学習塾が多い等）」といった理由から、特に自衛隊世帯において、子どもの進学に対応するために御殿場市へ引っ越してしまう傾向がみられる（富士学校は幹部が多いため、親の教育意識が高い）からです。また、御殿場市の学習塾に通わせるために、親御さんが送り迎えを

している家庭もあり、保護者の負担も大きいです。

そこで、須走地区内（特に学校の近く）に学習塾を設け、親御さんの負担を軽減し、少しでも教育環境に起因する人口流出を食い止めたいと、このように考えております。

次に、小山町での公設民営塾のイメージですが、狙いは今申しあげましたとおり、須走地区の人口流出の抑制で、対象は町内在住の小学校6年生～高校3年生としていますが、これは要検討が必要だと考えています。塾の形態は、完全個室指導型、一人一人に合わせた学習支援・受験指導塾、ということでございます。課題としては、これまで実態把握が全く出来てございません。よって、アンケート調査やヒアリングが必要だろうと考えています。また、須走地区以外から通う生徒の交通手段の確保についても、検討が必要だろうと考えています。加えて、場所の確保ということで、使用許可、賃料交渉などがあるということです。

ここで、A3の棒グラフの表を見て下さい。これの右下の表、これが須走地区の人口の推移でございます。平成23年4/1から、今年の4/1までを棒グラフで表してございます。平成23年は5119人の人口でございましたが、今年の4/1は4491人ということで、7年間で628人減っています。一年につき、約90人減っているわけです。

もう一つのA4の棒グラフの表を見て下さい。これの最後のページが須走小のデータです。これを見ますと、平成23年の生徒数は367人、平成30年の生徒数は246人ということになっています。その下のグラフ、これは年度毎・学年毎のグラフなんですけど、このグリーン（3年生）と紫（4年生）の部分を、年を追って見ると良く解るんですが、平成23年に56人だった3年生が、4年生になる時に49人になっている。同様に、平成24年に66人だった3年生は、4年生になる時57人に減っている。確かに全体的に人口も減っているんですが、これで見ると判るように、学校の中でも進学の際に減っているんですね。それで、最後には中学に上がる時にまた減ると、こういう現象が起きているんですね。それと、これは私が独自に集めた情報なので定かかどうかわかりませんが、何人かに聞き取りした結果から出た情報があるんですが、御殿場市には塾が「秀英」「佐鳴」「文理学院」「エール学院」といった4つの大きな学習塾があるようですね。これらへ須走の子ども達、特に5・6年生のうち約4分の1が通っていると。これが中学1年生になると3分の1が、中学2年生になると1学期は3分の1、2学期以降は2分の1、ほぼ半分ですね。更に中学3年生になると、1学期は2分の1、それが2学期以降になると4分の3が通っていますと、こういう事ようです。これは私の個人的な調べによるものなので、全く定かではありませんが、大雑把にこのくらいの数字が出てきました。

それと、須走の中にも塾が二つあるようですね。名前を申し上げて悪いんですが、個人塾で〇〇さんという方のところで英語だけですが5人、また、〇〇さんという方のところで人数は判り

ませんが、英語を含めて何教科か教えて下さっているようです。今のところ、区民の方お二人がやってくれていると。これが「須走の現状」ということと、大事なのは人口の減少というのは、子供たちの教育に関わってくるのかなということで、須走に小山町営の塾を作ったらどうですかと、こういった提言なんです。あくまで提言なので、まだアンケート調査もヒアリングも何もやっていないので詳しい事は掴めていませんが、これは出来れば早くやる必要があるのかなと、このように私は受け止めておりますので、これについても皆さんのご意見を聞いたうえで、教育長とも相談させていただいて、その対処方法を考えていきたいなと、このように考えております。ということで、この件に対して皆さんから一言ずつご意見を戴きたいと思います。

稲教育委員

公設の塾があったら、それはとても良いと思います。

米山教育委員

〇〇さんにしても〇〇さんにしても、すごくきめ細やかな指導ということで、皆さんに人気があります。ただ、送って行けるか行けないかという事が、親の悩みの種でございます。その辺がしっかり出来て、その上で、個人個人にきめ細やかな指導が出来ればいいのか、と思います。

相原教育委員

私も、民営塾が小山町内にあったらいいなと思っていました。須走にも塾が出来て、個別指導の形でやるのは、全体でやるよりも良いと思います。全体で大きな教室で一緒にの事をやると、その中でレベルの差があって遊んじゃう子がいて、集中して出来ないという話を聞いたこともありますので、そういう塾が町内の通える範囲にあるというのは魅力的だと思います。もし、須走でこういう塾が出来ると、他の地域でも「うちも通える範囲に欲しい！」という意見が出てくると思いますので、是非進めていただければ嬉しく思います。

湯山教育委員

中学教員だった私からいたしますと、塾を奨励するのは非常に不本意なんですけれども、ただそうは言っても、現実的に学年の4分の3が御殿場市の塾に通っているという実態があるとしたら、子供たちのためにも対応の必要性があるのかな、と思います。ただ、人口が減ったのは、それが理由としてどのくらいの事なのかな、と思います。中々実態は判らないんですけど、私が聞いている範囲ですと、住宅手当が出たことによって、ちょっと語弊がありますが、便の良い御殿場の方へ住んで、旦那さんだけが須走へ通うようなパターンが多くて、それで須走の人口が減っているという風に耳にしております。ただ、私も聞いた話なので、本当の実態がどうなのかということは判りませんが、塾を作って人口が増えるのかという部分については、どうなのかな、と感じております。ただ、子供にとっては、夜、わざわざ御殿場まで行って、遅い時間に暗い中

帰ってくるという実態を考えると、こういった要望に応じてあげること、大事な事なのかな、と感じております。

町長

皆様、ありがとうございました。これについても、教育長と相談させていただいて、どういう形にするのか、進めていくのか、この辺りを見極めて行きたいと思います。

もうひとつ、さっきの資料の中で、これはあくまでも案で、この通りというわけではございませんけど、実施までの最短のスケジュールというのがあります。8月にアンケート作成・配布、9月にアンケート回収・集計・検証、10月に調査結果協議、11月に塾開設に向けた計画・協議、12月に説明会実施、1月に塾運営計画・協議、2月に塾運営計画・策定、3月に塾開設準備、4月に開設と、これは中々厳しいスケジュールですが、こんな案となっています。

いずれにせよ、これをやる・やらないにしても、やっぱりこの件に関するアンケート調査は必要かなと、こう考えていますので、これは早急に対応していきたいと思います。また、アンケートの結果を見て、その先の協議も必要になってくるのかなと、こう考えています。よって、また教育委員会のご協力をいただいて、やはり学校を通して子どもたちにこれを配るのが、一番いいと思いますので、またその辺も相談させていただいて、アンケートの実施について、お願いをしていきたいと思います。よろしく申し上げます。この件については以上でありまして、こんな提案があったということで、ご承知おき戴きたいと思います。

最後のページですが、これはお金が結構かかるんですね。既にやっている川根本町は、年間約3千万円。資料を見ていただければ判るんですが、これを実施するとなると、色々と大きなハードルがあるなど、このように思います。

以上で私からの提言を終わります。これで司会をお返しします。

5 その他

町長戦略課長

町長、議事進行ありがとうございました。次に、次第の5 その他に移らせていただきます。本日の会全体を通じまして、皆様からご意見等がございましたら発言をお願いいたします。

相原教育委員

今年のものすごく暑い日が続いていまして、学校に通っている子供からも、その保護者からも、『教室が暑い！』それと『ランチルームがものすごく暑い！』という声を聞いています。今は夏休みに入っていますが、暑い中で授業を受けると、子供の集中力も落ちるのかな、と思いますし、何より熱中症等の心配も出てきてしまいます。お母さん方からは、各教室にエアコンなりクーラ

一なり、夏場の暑さ対策として何か出来ないのかなという意見を良く耳にするようになりました。これはお金のかかることですが、是非検討していただきたいということと、新しい学校は良いんですけど、成美小のように、そろそろ建て替え時期に入るのでは？みたいな学校に関しては、そういう新しい設備を付けてしまうと、それもどうなのかなあ、というのがあるんですけど、せめて簡易エアコンというか、クーラー等が教室の一つでもあれば、ちょっとは違うのかなあと思いますので、是非検討していただきたいと思います。

米山教育委員

須走でも今年は本当に暑いんです。須走中はエアコンが入っているからよろしいんですけども、須走小学校は扇風機すらありません。そうすると、今年も大江町などから子供たちが登山に来ますけれども、ランチルームでの食事がとても気がかりな様ですので、須走も入れていただきたいと思います。

稲教育委員

足柄も風が良く通るようですが、やはり暑いので、足柄小も是非よろしくお願いします。

湯山教育委員

先生方に伺っても、「本当に授業にならない」との意見が多く出ていました。今後、例年そうなる傾向にあるんじゃないかと思いますが、梅雨明けが非常に早くなる傾向にあって、更に7月だけではなく9月も非常に気温が高くて、国から「夏休みを長くすれば」なんて話もありましたけれども、授業日数を考えますと、それは非常に難しい状況にあります。先生も生徒も安心して授業が出来るような環境を整備するのは、すごくお金のかかる問題であることは非常に理解できるのですが、色んな方法を使って環境を整えてやらないと、まともに授業が出来ないんだろうなと感じますので、できれば是非お願いしたいと思います。

長田教育次長

エアコンの設置につきまして、ここ最近異常気象と言いますか、夏は特に暑いので、概算ですが須走中以外の学校についても見積もっておりますが、やはり“億”という単位で高額な工事費となります。また、どこから設置するのか、いつ設置するのか、夏休みに設置するとかお昼休みにやっていくとか、そういった工事のやり方や期間なんかも含めまして、今後しっかり検討して、できるだけ安心できる環境で授業が受けられるような方法を考えて、予算のことも含めまして、今後検討して行きたいと考えております。

町長

暖房はあるの？

教育長

暖房はあります。ストーブがあります。

町長

どういうストーブなの？

教育長

大型のストーブだったり、学校によっては設置型のストーブだったり色々です。

町長

エアコンを付ければ、冷暖房できるんだよね。

教育長

そうですね。現在、いくつかの学校では扇風機でやっているんですけど、とにかく早急にやりたいのはランチルームです。ランチルームはとにかく暑いんです。虫が入ってくるのを防ぐために、網戸すらないところもありまして。須走は網戸を付けたのでまだマシですが、網戸の無いところは正に温室です。

町長

今まで、そんな話を聞いたことは無かった。今年初めて聞いたが…。

教育長

いえ、学校では暑い暑いと騒いでいました。それでも、今までは大型の扇風機をつけて対処していて、これまではそれで何とか済んでいたんです。通常はこんなに暑くなるのは、終業式が終わって夏休みに入ってからだったんですけど、今年は異常に梅雨明けが早くて、学校をやっているうちにものすごい暑さになってしまったので、それでこういう話が浮上してきたということです。これも今後検討ということですね。

6 閉会

町長戦略課長

ありがとうございました。その他に何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは無いようですので、以上を持ちまして、平成 30 年度 第 1 回総合教育会議を閉会とさせていただきます。皆様、お疲れ様でした。

〔（※議事録は公開であるため、プライバシー保護及び個人情報保護の観点から、個人が特定される部分については名前を伏せてあります。ご了承ください。）〕

この議事録の記載事項に異議なく、ここに署名する。

平成30年 8月30日

小山町長

込山正壽

小山町教育長

天野文子